

分担研究課題名：HTLV-1 キャリア外来の実態調査

研究分担者 氏名 石塚賢治 所属 福岡大学

研究要旨

human T-lymphotropic virus type I (HTLV-1) キャリアの医療ニーズを明らかにするために、HTLV-1 non-endemic area にある HTLV-1 キャリア外来標榜2施設、HTLV-1 semi-endemic area にある HTLV-1 キャリア外来標榜1施設、HTLV-1 semi-endemic area にある HTLV-1 キャリア外来非標榜1施設の、HTLV-1 キャリア対応の実態を調査した。HTLV-1 に対する施策、社会の関心によって、キャリア対応ニーズは今後も高まると予想されるが、キャリア外来での相談内容等の概略を把握し、地域による HTLV-1 キャリアのニーズが異なることを明らかにした。本研究は今後の HTLV-1 キャリア対応のあり方を検討する材料となることが期待される。

A. 研究目的

human T-lymphotropic virus type I (HTLV-1) キャリアの医療ニーズを明らかにする。

B. 研究方法

研究参加施設

- HTLV-1 キャリア外来標榜施設
 - HTLV-1 non-endemic area
東京大学医科学研究所
聖マリアンナ医科大学
 - HTLV-1 semi-endemic area
福岡大学
- HTLV-1 キャリア外来非標榜施設
 - HTLV-1 endemic area
慈愛会 今村病院分院

上記研究参加施設における HTLV-1 キャリア外来開設時から2012年11月30日までの初回受診者を対象に、症例調査用紙に必要事項を記載する。

（倫理面への配慮）

患者の情報は「疫学研究に関する倫理指針」に従い、個人情報を除いたデータのみ収集した。症例調査用紙は、各施設にて記入され、施設内でのみ連結可能な状態で匿名化されたもので、匿名化作業と連結リストの管理は各施設で行うこととした。

C. 研究結果

1. 受診者数

	調査対象期間	男性	女性	合計
東京大学 医科研	2003/10-2012/11	104	272	376
聖マリア 医科大	2007/ 5-2012/11	8	40	48
福岡大学	2010/11-2012/11	16	50	66
今村病院 分院	1988/ 3-2012/11	23	44	67

2 . HTLV-1 感染を知った経緯

献血が 30.1%と最も多く、次いで妊婦健診が 23.5%、他病で医療機関を受診時の検査が 16.7%であった。

3 . HTLV-1 感染を知ってからキャリア外来受診までの期間

1 か月以内が 16.2%、半年以内が 19.0%、1 年以内が 7.7%であった。11 年以上も 18.0%あった。

4 . HTLV-1 キャリア外来を知った経緯

当該医療機関ホームページ 32.8%、紹介医 19.7%、新聞やテレビ等のマスコミ 10.3%であった。

5 . 受診の目的や相談内容

関連疾患発症の有無の検査目的が 34.2%、全般的説明(不安に対する対応、授乳の自責など)が 17.1%、関連疾患についての説明が 10.9%、生活上の注意点、発症予防法の有無の相談が 5.6%、子供の検査についての相談が 5.5%であった。

D. 考察

本研究により、HTLV-1 キャリア外来の実態を明らかにすることができた。

2012 年 4 月から妊婦健診に HTLV-1 抗体スクリーニング検査が導入されたことから、今後は妊婦健診関連での受診者が増加するものと考えられる。また、HTLV-1 感染を知ってから 2 年以上経過してからの受診が半数を占めたが、これはこれまで HTLV-1 に関する社会の関心がなかった状況が、この数年に大きく変貌したことと関係していると考え

られる。これまで HTLV-1 感染を知っていても、特に気に留めなかった、あるいはキャリア外来の存在を知ることができなかつたり、HTLV-1 キャリア外来自体が存在しなかったために、感染を知っても受診することができなかつた可能性が高い。

相談内容は、上述の内容を含め 10 項目程度に類別化できた。この情報は、まれにしか HTLV-1 キャリア対応をすることのない HTLV-1 non-endemic area での医療機関、保健所等の対応マニュアルの作成にも役立つ情報と考えられる。

本報告書では詳細は割愛したが、HTLV-1 endemic area で日常臨床としてキャリア診療を行っていた医療機関では HTLV-1 non/semi-endemic area のキャリア外来と比べ、受診者の背景が異なっていた。これは保健所や一線の医療機関での対応様態の違いなどの種々の因子が関連しているものと考ええる。

E. 結論

HTLV-1 キャリア外来の対応について、国内の 4 施設の実態をまとめた。

今後のキャリア対応の在り方を検討する材料になることが期待される。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

英文雑誌

1. Nakano D, Ishitsuka K, et al: Screening of promising

chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (III). J Nat Med. Oct;67(4):894-903, 2013

2. Nakano D, Ishitsuka K. et al: Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (II): apoptosis of antiproliferative principle (24,25-dihydrowithanolide D) against ATL cell lines and structure-activity relationships with withanolides isolated from solanaceous plants. J Nat Med. Apr;67(2):415-20, 2013

和文雑誌

1. 石塚 賢治 ATLプログレス2013、臨床血液54巻10号 Page1817-1827, 2013
2. 石塚 賢治【悪性リンパ腫-診断と治療の進歩】成人T細胞白血病/リンパ腫診療の現状と課題、日本医師会雑誌142巻5号 Page1059-1062, 2013

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし